

VNETプラスのセットアップ

1. VNETユーザの登録

VNETプラスを実際に利用するエンドユーザの中から代表者がVNETユーザの登録を行ってください。
以下のURLからユーザ登録画面に移行してください。

<https://ntm200.com> ⇒ VNETユーザ登録

*希望するVNETユーザ名(半角英数)

[詳しくはこちらをご確認ください。](#)

希望するVNETユーザ名を入力してください。
この名前は後で定義するエンドユーザの
VNET IDの一部に使われます。

*パスワード

希望するパスワードを6文字以上で入力してください。

*メールアドレス

通常利用しているメールアドレスを入力してください。

会社名

会社名を入力してください。このフィールドはオプションです。

*名前

名前を入力してください。

「ご利用規約」を一読のうえ、「利用規約に同意する」にチェックを入れてください。
確認をクリックしてください。

画面を確認後、登録をクリックしてください。

確認のメールが届きますので、指定されたURLをクリックすることにより登録が完了します。

VNETユーザ名が他のユーザと重複していた場合はその旨表示されますので、別のVNETユーザ名で再度登録を試みてください。

2 VNET IDと通信グループの定義

登録を終えたVNETユーザは、エンドユーザのVNET IDと通信グループの登録を行います。
以下の手順により管理者画面に移動できます。
<https://ntm200.com> ⇒ Login (ホームページ画面の最下部にあります。)

<input type="text" value="VNETユーザ名"/>	先ほど取得したVNETユーザ名とパスワードを入力しLOGINをクリックしてください。
<input type="text" value="パスワード"/>	
LOGIN	
パスワードを忘れた方はこちら	

2.1 通信グループの登録



まずグループ登録を行いますので通信グループ登録をクリックしてください。

エンドユーザは1つ以上の通信グループに入る必要があります。
通信グループ名に制約はないので自由に名前をつけてください。
用途欄はオプションです。メモ欄としてご利用ください。
「登録」をクリックすると、登録したグループ名がグループ一覧に表示されます。
通信グループは3つまで無料で登録できます。

通信グループ登録

3グループまで登録可能

*通信グループ(半角英数)

通信グループ名に制約はないので自由に名前をつけてください。

用途

用途欄はオプションです。メモ欄としてご利用ください。

登録

← 「登録」をクリックすると、登録したグループ名がグループ一覧に表示されます。

2.2 VNET IDの登録

通信グループ登録

VNET ID登録

通信グループ定義

ユーザ編集

ログアウト

次にエンドユーザのVNET IDを登録します。「VNET ID登録」をクリックしてください。

VNET ID登録

5名まで登録可能

*VNET ID

VNET IDの後半は、「VNETユーザ名」.ntm200.comで固定です。
VNETユーザ名がサブドメインとして使われていることを確認してください。

*パスワード

VNET IDの前半を決定して入力してください。
前半部分にさらにサブドメインを追加することも可能です。

※パスワードは初回のみ管理者が決定します。
ユーザがパスワードを変更したら管理者からは変更できません。

エンドユーザの初期パスワードはVNETユーザ（管理者）が決めてください。

氏名

名前と所属はオプションです。

所属

所属通信グループ

group1

登録済みの通信グループが表示されているので、どの通信グループに所属するのかチェックを入れてください。
後で設定を変更することも可能です。

登録

ここで決めたVNET IDとパスワードは、該当するエンドユーザに通知する必要があります。

同様に、すべてのエンドユーザのVNET IDを登録してください。
エンドユーザは3人まで無料で登録できます。

発呼（呼び出し）と着呼（受信待ち受け）の許可設定ができます。サーバは着呼のみのことが多いので、発呼を禁止することによりセキュリティが向上します。デフォルトは発呼、着呼とも許可となっています。

2.3 通信グループの定義

[通信グループ登録](#)

[VNET ID登録](#)

[通信グループ定義](#)

[ユーザ編集](#)

[ログアウト](#)

次に通信グループの定義をクリックしてください。
縦軸に登録済みのVNET ID、横軸に登録済みの通信グループ名が表示されています。
VNET IDと通信グループ名が想定通りになっていることを確認してください。
間違いがあったら「編集」をクリックして修正してください。
ただし、VNET IDは変更できませんので、もし間違っていた場合は、一度削除してから再登録してください。

通信グループ定義

保存する ← 設定内容を確認のうえ「保存する」をクリックしてください。

VNET IDと通信グループを対応付けます

※保存ボタンをクリックすることで更新されます

VNET ID	氏名	所属	通信グループ名
win1.demo1.ntm200.com 削除 編集	<input type="text" value="windows"/>	<input type="text" value="vnet"/>	group1 編集 削除
lin.demo1.ntm200.com 削除 編集	<input type="text" value="linux"/>	<input type="text" value="vnet"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
and.demo1.ntm200.com 削除 編集	<input type="text" value="android"/>	<input type="text" value="vnet"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

↑
チェックを入れたりはずしたりすることにより、簡単に通信グループの変更が可能です。複数の通信グループに帰属することも可能です。

設定が終了したらログアウトして終了してください。

3. VNETプラスのインストール

すべてのエンドユーザはVNETプラスをインストールする必要があります。
エンドユーザはダウンロードサイトに移動してください。

<https://ntm200.com> ⇒ Downloads (ホームページ画面の最下部にあります。)



ここで対応するOSをクリックしてください。
ここではWindowsのインストール方法を示します。
Windowsをクリックするとすぐにダウンロードが始まります。
ダウンロードフォルダのVNETInstaller.msiを起動するとVNETプラスのインストールが始まります。
指示に従ってインストールを続けてください。
途中でOSからインストールの許可を求められるので許可してください。
VNETプラスのインストールはすぐに終わります。

続けてYogaDNS(*)のインストールを求められます。
こちらも指示に従ってインストールを継続してください。
インストールが終わるとVNETプラスのアイコンが生成されます。
アプリケーション一覧の中にVNETプラスのアイコンが表示されますので確認してください。



VNETプラスのアイコン

(*) YogaDNSはDNSクエリを監視するアプリケーションで、VNETプラスを実現するための機能の一部として利用しています。YogaDNSが単独でバージョンアップを要求してくることがありますが不要です。Disable product update checkにチェックを入れてNoを選択してください。

4. VNETプラスの起動

インストールが終わったら、VNETプラスのアイコンをクリックして立ち上げてください。

以下のような入力画面が表示されますので必要な情報を入力してください。



認証サーバはデフォルトでVNETテクノロジーが提供しているAS (Account Server) の名前が表示されます。自らがVNETクラウドを運営する場合を除き変更不要です。

VNETユーザーから通知されたVNET IDとパスワードを入力し、ログインできることを確認してください。

ログインを押下して認証に成功すると以下のように画面が遷移し、VNET IDとともに、現在の実IPアドレス、仮想IPアドレスが表示されます。

この画面が出ればログインに成功し、VNET通信の準備ができたことを示します。表示が出ない場合は、ネットワークの接続や、入力情報に誤りがないか確認してください。



次にパスワードをエンドユーザだけが知る内容に変更してください。
STOPをクリックして一度VNETプラスを終了させてください。

現状のパスワードを入力して「パスワード変更」をクリックすると、以下の新パスワードを入力する画面に遷移します。



新パスワード

「VNET IDをこのデバイスに紐づける」にチェックを入れると、ご利用中のVNET IDがこのデバイスに限定されセキュリティが向上します。

VNET IDをこのデバイスに紐づける

新パスワードを入力して登録をクリックしてください。
パスワード変更の確認ポップアップが出るのでOKを押下してください。

新パスワードで再度ログインできることを確認してください。

ここで、「VNET IDをこのデバイスに紐づける」にチェックを入れると、ご利用中のVNET IDがこのデバイスに限定されるようになります。
すなわち、通信デバイスを保持し、かつパスワードを知っている人だけがログインできるようになります。
認証条件が増えるのでセキュリティが向上します。
ただし、別の通信デバイスからログインできなくなるので注意してください。

以上でVNETプラスの準備は完了です。

[留意事項]

同じVNET IDのマシンが同時に立ち上がっていると動作の保証ができません。同じVNET IDを複数のユーザーが使い回すことは避けてください。

5. 動作確認

これまで通信相手を指定するときに、IP アドレスまたはホスト名を使用しますが、この部分を VNET ID に置き換えてください。

以下の場合を例にとります。

通信相手の IP アドレス : 192.168.10.100

通信相手のホスト名 : abc.def.acompany.co.jp

通信相手の VNET ID : aaa.vuser.ntm200.com

Windows のファイル共有を行う際にエクスプローラーのファイル指定欄に入力する内容 :

これまででは ¥¥192.168.10.100¥file1 または、¥¥abc.def.acompany.co.jp¥file1

VNET 利用時には ¥¥aaa.vuser.ntm200.com¥file1

Web サーバを閲覧する際にブラウザの URL 欄に入力する内容 :

これまででは https://abc.def.acompany.co.jp:8080/index.php

VNET 利用時には https://aaa.vuser.ntm200.com:8080/index.php

DNS クエリをトリガにして VNET 通信が始まるので、名前解決に DNS 以外の方法を使っているアプリには対応できません。